

## 〔実践例3〕 高等学校第3学年

## メゾチントプレートによる銅版画の制作（全26時間）

新潟市立高志高等学校教諭 山 岸 統

## 1. 生徒の概要

第3学年1組と2組の生徒は、英語又は美術のどちらかを2単位選択して履修する。対象生徒は、両クラスからの美術選択者計23名（男子14名、女子9名）である。これらの生徒のうち半数強の生徒が短大、専門学校等への進学を希望している。生徒の美術に対する興味関心は全体的に低く、美術に関心のあるものは4、5名と少ない。生徒のほとんどは、絵をかくことに対して苦手意識を持っており、絵画やデザインなどの平面制作より彫刻や工芸などの立体制作に興味関心が強い。これらの生徒にとって銅版画はもちろんのこと、メゾチントの制作は初めての経験となる。

## 2. 題材のねらい

生徒には、「下がきは得意だが、色を塗ると失敗する」という着色に対する苦手意識がある。白と黒の版表現によって黒の深さや美しさの魅力を発揮するメゾチントは、生徒を着彩に対する苦手意識から解放するとともに、白と黒の表現のよさや美しさに気づかせるきっかけになると考えられる。また、メゾチントは生徒にとって未経験の題材であり、銅版を磨き上げて製版するという工芸的な要素を含んでいることから、彼らの興味関心を引くことができると考え本題材を設定した。本題材の主なねらいは次のとおりである。

- (1) メゾチントプレートによる銅版画の制作を通して、版画全般に対する関心を高める。
- (2) 白と黒による表現の方法を基礎にして、メゾチントの魅力である黒の効果を生かした創造的な版表現ができる。
- (3) 製版、刷りの過程を通して、凹版画の方法を理解し創造する喜びを実感できる。

## 3. 展開の構想と工夫

本題材では、目立て済みのメゾチントプレート銅版（新日本造形社）を使い、バニシャーによる磨き出しで製版する。本題材では、題材のねらいを効果的に実現するために、次の指導上の工夫を採り入れた。

- (1) 生徒のメゾチントに対する興味・関心を高めるとともに、技法や作品についての基礎知識を得るために、導入時にNHKの日曜美術館「長谷川潔」のビデオを鑑賞する。
- (2) メゾチントの魅力である黒の美しさや明暗の微妙な表現の効果に着目させるために、長谷川潔の画集やメゾチントによる作品（実物）を提示する。
- (3) バニシャーによる磨き出しのこつや刷りの手順について教師が示範する。

## 4. 評価

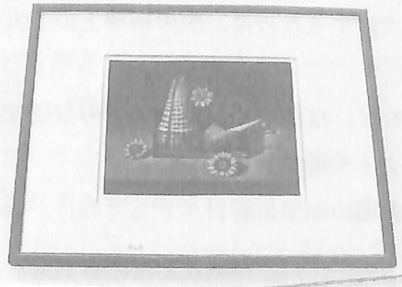
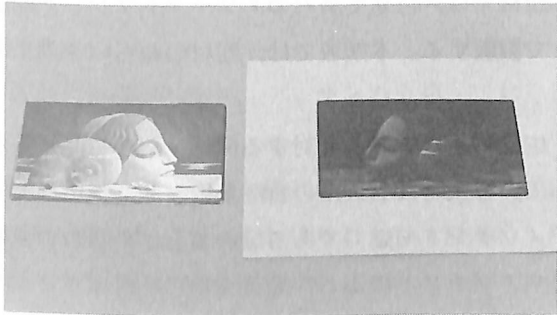
- (1) 最後まで意欲的に取り組み、版画に対する興味関心が広がったか。（関心・意欲・態度）

- (2) メゾチントの特性を踏まえて発想、構想して創造的な表現ができたか。(発想・構想の能力)
- (3) ① 黒の深さや明暗の変化の美しさなどを効果的に生かし、創造性豊かな版表現ができたか。
- ② 工具の使い方を工夫して製版し、適切な方法で刷ることができたか。(創造的な技能)
- (4) メゾチントの原理を理解し、関心をもってメゾチント作品をみることができたか。(鑑賞の能力)

## 5. 準備

- (1) 生徒 定規, スケッチブック, 鉛筆
- (2) 教師
- ① 参考資料 NHK「日曜美術館, 長谷川潔」の録画ビデオ, 画集(長谷川潔), 雑誌「21 Prints」, メゾチント作品及び原版
- ② 材料 メゾチントプレート銅版12×15cm(0.8mm厚)各1, トレーシングペーパー各1, カーボン紙, 版画紙(プレダン紙), 版画用油性黒インク(文房堂青口), 新聞紙, 油絵用の筆洗油, リグロイン, 硝酸, あい紙, 寒冷紗, ぼろきれ
- ③ 用具 版画プレス機1, 手回しグラインダー1, 金工ヤスリ3, スクレーパー付きバニシャー2, バニシャー(革工芸用モデラを代用)各1, ゴムローラー

## 6. 指導の実際

段階	学 習 活 動	具体的な活動及び教師の働きかけ	生 徒 の 反 応
第 一 次  導 入 ( 2 時 間 )	<p>NHK「日曜美術館, 長谷川潔」のビデオ鑑賞(1時間)</p> <p>長谷川潔の画集, メゾチント作品(実作品)の鑑賞(20分)</p> <p>次の課題を知る。(40分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を知り, メゾチントの方法や作品についての基礎知識を得る。</li> <li>・メゾチントの黒の深さや微妙な調子の美しさなどの特性に着目させる。</li> <li>・実作品の原版, メゾチントプレートを見せ, 製版の方法や制作工程を確認する。</li> <li>・指定の大きさに下絵を考えることを指示する。テーマは自由だがオリジナルなものを考えることを伝える。</li> </ul>	<p>聞き慣れない技法名やその方法に関心をもって鑑賞する</p> <p>「すごい」 「これ写真じゃないの」</p> <p>メゾチントのやり方がまだ理解できていない様子</p>
	 <p>参考作品</p>	 <p>メゾチントの原版と作品</p>	



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・製版の進み具合の目安となるように、トレーシングペーパーを版面にあてて見ることを助言する。</li> </ul>	
第五次 試刷り (2時間)	試し刷り	<p>教師自身が製版した版を使って刷りを示範する。主な手順は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレダン紙を水に数分浸し、ビニルに包んでおく。</li> <li>・製版の作業で版面に生じた錆や汚れを極く薄い希硫酸を染み込ませたぼろきれで拭き取る。</li> <li>・刷りの工程によりそれぞれの作業場所を用意し、次の手順で刷る。               <ol style="list-style-type: none"> <li>① ローラーでインクを盛る。</li> <li>② 寒冷紗でインクを詰める。</li> <li>③ 寒冷紗でインクを拭き取る。</li> <li>④ 版画紙を版に載せる。</li> <li>⑤ プレス機で印刷する。</li> <li>⑥ 刷りが終わったら筆洗油をぼろきれにつけて版に残ったインクをきれいに拭き取る。</li> </ol> </li> </ul>	<p>製版が進み、試し刷りができそうな生徒がでてくる。</p> <p>示範に注目して興味深く見ている。</p>
第六次 修正・本刷り (2時間)	<p>版の修正をする</p> <p>本刷りをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試し刷りの状態を見ながら白さの不足している部分の修正を加える。</li> <li>・刷りは、4人までは一緒に刷れるので、協力して刷るようにする。</li> <li>・作品を乾燥させ、1枚を提出させる。</li> </ul>	<p>制作が遅れている生徒は修正の時間が取れない。</p>

## 7. 生徒作品



生徒作品例 1 (男子)

写真をもとにして2機の飛行機を再構成した作品。白、黒、灰色の対比とパニシャーのタッチを生かした背景のハーフトーンが美しい。

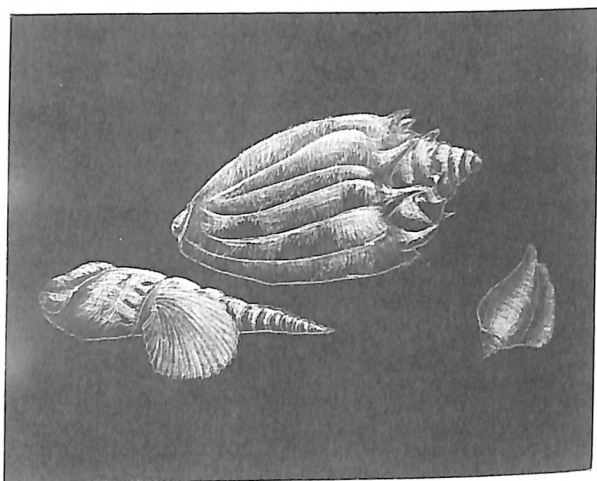
絵をかくことが好きな生徒で意欲的に取り組み、制作も順調に進んだ。



生徒作品例2（男子）

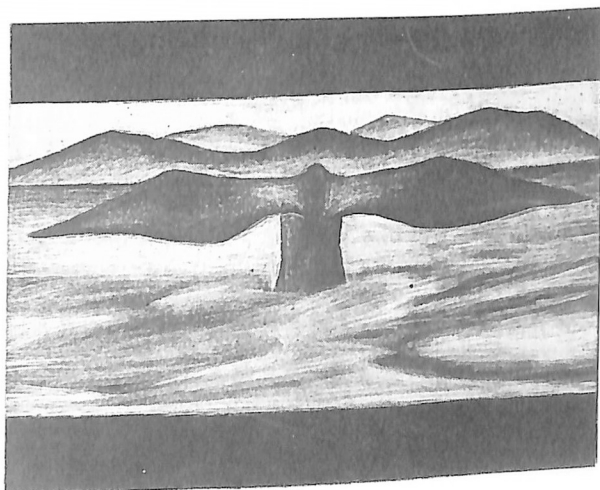
イングリッド・バーグマンの写真をもとに制作した作品。顔の部分にスクレーパーを使用し、髪はバニシャーの角度を工夫して細く白い線で表わした。

絵が得意な生徒で最も早く制作が進んだ。



生徒作品例3（女子）

美術教室においてあった静物画用の貝殻を描いたもの。テーマがなかなか決まらなかった。また、貝殻の複雑な形や模様の表現に戸惑いながら制作した。貝殻の置かれている空間の処理があいまいで未完成といえる。



生徒作品例4（女子）

海と鯨をテーマにして、自分のイメージを表現した。鯨の尾の形と島の山の形が重なり、心象的なイメージを想起させる。海の部分にバニシャーの使い方を工夫してハーフトーンを作ると空間と色の幅がでると思う。

## 8. 結果の考察と今後の課題

(1) 発想を引き出すためのテーマの提案の仕方の工夫が必要である。

高等学校 3 年生とはいえ、多くの生徒がそれほど美術に関心が高いとはいえないこのクラスにおいて「自由なテーマで下絵を考えなさい」という課題は、生徒たちの戸惑いをもたらし、発想や構想が煮詰まらないまま時間ぎりぎりに製版を終え、刷って提出というものも少なくなかった。生徒の興味関心の程度や表現欲求をとらえ、課題のねらいを制限して題材のねらいを明確に示すとか、発想がスムーズになるようなテーマをいくつか教師側で用意するなどのきめ細やかなテーマの提案の仕方を工夫する必要がある。

(2) 生徒の思いや独創性などを生かす指導の工夫が必要である。

生徒作品 23 点のうち写真やイラストなどを参考にして描いたもの 9 点、果物や貝殻などの実物をモチーフにして描いたもの 6 点、自分なりのイメージをもとに描いたものが 4 点だった。テーマの提案の仕方の配慮不足は、安易に写真などに頼るという結果を生んだ。写真の明暗に基づいて製版を行うことで、いわゆる写真のような作品となって見た目には完成度の高さを感じさせる作品もいくつかできたが、全体的に創造性やオリジナリティの感じられる作品は多いとはいえない。生徒の思いや独創性を引き出してオリジナリティが作品に反映するように、構想段階で表現に対する生徒の意思や気持ちを生かし、練り上げる支援の方法などを検討する必要がある。

(3) 生徒一人一人に合ったバニシャーを用意する必要がある。

生徒に与えたバニシャーは、加工を加えたものではない。生徒によっては、「どこを磨いているのかよく分からない」など使いにくさを訴えるものがいた。バニシャーの曲がり具合、大きさなど様々な種類をそろえておき、生徒が選んで使えるような配慮が必要である。